

Z. プレジンスキー 著 山岡洋一訳

「地政学で世界を読む - 21世紀のユーラシア覇権ゲーム -」を読む

- 世界における日本の役割を考える -

◆ 国際政治において解決策などという言葉自体存在しない。すべての解決策はおしなべて、新しい問題を引き起こし、そうした繰り返しが続いていくからだ。 P.11

◆ 日本 - 地域大国ではなく国際大国に

日本はアメリカの意向に沿って、日米軍事協力を強化しており、その一環として軍事協力の範囲対象を「極東」という限られた範囲から、「アジア・太平洋地域」という広い範囲に拡大させようとしている。これに伴い、1996年初めのいわゆる日米防衛協定の指針見直しで、日本政府は自衛隊を動員する可能性がある事態を「極東有事」から、「日本の周辺有事」へと変え、適用範囲を広めた。この問題で、日本がアメリカの意向を受け入れようとしているのは、アメリカがアジアに長くはとどまらないかもしれないとの懸念が広がっているからであり、さらには、中国が力をつけ、アメリカがそれを懸念していると思えることで、将来、受け入れがたい選択を迫られるのを恐れているからである。つまり、アメリカと手を組んで中国に対抗するか、アメリカと手を切り中国と同盟を結ぶかという選択を迫られるのを恐れているのだ。

日本にとって、この本質的なジレンマは歴史の必然が込められている。つまり、アジアの大国になる目標は事実上不可能であり、地域に基盤がない国が真の意味で世界大国になることはできないので、日本が世界舞台で指導的な地位を確立するには、世界的な平和維持活動と経済開発に積極的に参加するのが最善の方法である。日米の軍事同盟によって極東の安定が維持されている利点を生かし、この同盟が反中国の同盟に発展しないように注意していけば、日本は効率的な組織にも度就く国際協力関係を推進する大国として、重要な影響力ある世界的な使命を追求していける。そうになれば日本は、カナダに似ているが、はるかに強力で世界的に影響力のある国になれる。つまり、自国の富や力を建設的に活用している国として世界の尊敬を集め、脅威や増悪の対象とならない国になれる。

Z. プレジンスキー 著 山岡洋一訳

「地政学で世界を読む - 21世紀のユーラシア覇権ゲーム -」

日経ビジネス文庫、日本経済新聞社 2003年3月1日刊

- 2006年9月10日記 -